

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	はればれの名のように、利用者が安心して地域の中で生活できるような理念のもとにサービスを提供し、実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	週一回は職員が交代で理念を唱和している。また、利用者の個人の能力を尊重しながら理念に掲げたサービスを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して、地域の中のホームとして生活を実感するための参加ができています。		自治会への参加はあるが、周辺の小学校や保育園その他の地域との交流が多いとは言い難い。積極的なアプローチによる交流に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が外部評価に対する認識を持ち、自己評価についても、みんなで評価しながらホームの改善点を探るなどの取り組みを行っている。		

宮崎県三股町 グループホームはればれ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月ごとに、地域住民や家族、その他の関係者によって行われ、それぞれの意見等を踏まえて、ホームのあり方が模索され、利用者のサービス向上に努められるように取り組んでいる。		今後運営推進会議では、外部評価の報告もお願いしたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が窓口になり、市町村の担当者との連絡や連携を図るようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来訪するたびに近況の説明や報告をし、さらに毎月ホーム便りや文書等での報告が行われている。		家族会の組織化について検討してほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しているが、これまで意見や苦情はない。また、苦情担当者も決めているが、担当者が家族や来訪者にはホームについての意見をそのつど聞いたりしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や退職がある場合には、あらかじめ利用者や家族には話をして不安のないように心がけている。また、ユニットごとの異動についての利点もあり、利用者には違和感のないように心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は公平に外部研修を受けることができている。また、研修後の復命書のほかにも、研修資料を他の職員が閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県南地区のグループホーム連絡協議会への参加や、三股町内の同業者同士の情報交換等も積極的になされている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には事前のホーム見学や体験がなされており、その雰囲気を感じてもらいながら入居準備がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	和やかに利用者と職員同士の家族的な会話がはずみ、笑いが絶えないホームの姿は共に生きる雰囲気が出ている。また、職員も利用者からの教えを尊重しながら生き生きとしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人ひとりが可能な限り利用者の希望に沿って支援している。また、介護計画にも本人の主訴や希望に応じたサービスの内容が示され、実行されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画策定のためのカンファレンスの参加やセンター方式（認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式の略）によるアセスメントから実績の確認まで、職員全員が参加し利用者一人ひとりの支援が実践できるように取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングによる定期的なカンファレンスや介護計画の見直し、また、利用者の状態に応じた見直しが図られている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームは利用者のみならず、緊急性のある地域の方々への受け入れ等、その準備はあるが、ホームの職員全体にその理解や意識が浸透していない。	○	ホームは地域の中にあって、地域のためにその機能性を発揮する役割も併せ持つので、そのことに対する理解と意識を持つための取り組みや方針を立てられることに期待したい。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの経営者が医院をしており、ホームに隣接した場所にある。利用者のほとんどはその医院がかかりつけ医であり、いつでも相談できる体制にある。また、他科受診の際には家族の応援や医師の往診などの体制ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のことや重度化になったときのことなど、ホーム内の方針を職員は理解し、準備もできている。また、家族との個別の話し合いもなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	トイレ誘導はプライバシーや自尊心に考慮してさりげなくできている。また、トイレや居室も個人のプライバシーが守られるように配慮してある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中の日課はできているが、利用者の個性を大事にしながら、決して強制などすることもなく、ゆっくりした時間の流れの中で利用者のペースに合わせながらの支援ができている。		

宮崎県三股町 グループホームはればれ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日に何が食べたいかでメニューを考え、隣接医院の栄養士に相談しながらできている。また、食事中は和やかに声かけしながら傍らで介助したり楽しくできている。ただ、職員は弁当を持参しており、利用者と同じものを食べてはいない。	○	職員は同じ時間に利用者と楽しそうに食事をしてきたが、利用者と職員が同じものをとることで利用者も遠慮せず食べることができ、食材や味付けなどの話題も共有できるので、ホームの方針としても同じ食事を食べられるようにしてほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者一人ひとりの週の回数を定めて午後に行っている。また、ゆっくり入浴できるように時間をかけて行っている。	○	ホームの日課や職員体制の都合で入浴の回数や時間が決められており、仮に利用者の希望回数や時間があっても、それかなえることはできないのが現状である。家庭的な暮らしの中での支援という考え方や利用者の意思尊重に沿った支援ができるような体制作りや努力を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の能力に合わせて、洗濯物たたみや食後の後片づけなどの役割を持ちながら、利用者の生活に潤いが持てるような支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣のスーパーへの買い物や、利用者の希望に沿った外出の支援ができている。また、場合によっては家族の協力も得ながら実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の生活のスペースは屋内だけでなく、外部にも自由に出はいることができるように玄関や門扉には施錠はされていない。あくまでも利用者の人権を損なわないという理念を信条に、職員の見守りの中で利用者の権利擁護がなされている。		

宮崎県三股町 グループホームはればれ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いの下、定期的な火災等の訓練が実施されている。また、全職員の参加により、火災等の災害訓練がなされている。		災害が発生したときは、少なからず地域の応援が必要になる。地区の自治会にも加入しているので、できれば災害訓練にも地域の方に声かけして、見学等の参加でもしていただくような取り組みを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホームで作成した献立表は、医院の栄養士の指導を受けながら栄養管理がなされている。また、利用者の咀嚼や嚥下力に合わせた食事形態が適切になされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内部は日当たりもよく、暖かな雰囲気、住宅街ではあるがとても静かなたたずまいである。中庭は菜園やくつろぎスペースもあり、サンデッキでの日光浴などもできて、季節感が味わえるような空間が随所に見られる。利用者は食後に自然とテレビの前のソファに腰掛けてくつろいでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の個性がそれぞれ出されており、使い慣れた調度品や家具、仏壇なども持ち込まれている。また、季節や時間を知らせるカレンダーや時計もあり、壁には絵画や写真など、それぞれの住まいとして生活感がにじみ出ている。		

※  は、重点項目。